

豊明市文化財保護委員会（臨時会）会議録

日 時：平成28年5月11日（水）午前10時から

場 所：豊明市役所東館3階 教育委員会室

出席者：南山大学 伊藤秋男名誉教授、浅井委員、佐野委員、鈴木委員、近藤委員

事務局：高木生涯学習課長、青木生涯学習課長補佐、岸田主査、神谷社会教育指導員

傍聴人：なし

1 あいさつ

生涯学習課長

2 議題

(1) 沓掛城址 発掘調査報告の概要説明

昭和56年から昭和61年の沓掛城址発掘調査に携わった際の報告内容（縄張の状況等）に基づいて概要説明、現地説明を行った。

○発掘調査（昭和56から昭和61年）による時代区分としては16世紀を中心大きく3期に渡って整備改修がされていることが明らかとされている。

・第1期：苑池を配した建物が建てられた後、掘立柱建物とため池、井戸が作られた居館的な性格が強かった時期

・第2期：掘立柱建物が壊され池も埋め立てられて、堀と土塁・礎石建物が造られた城郭的性格

・第3期：土塁が削平され城郭としての機能が失われた時期

○土塁の幅が8メートルに及び、平地に築かれて残る唯一の遺構である。

○縄張は桶狭間の戦いの前に短期に築かれたものと考えられる。

○現地踏査を行った結果、現況の地形は江戸時代中期に作成された『沓掛村古城絵図』（蓬左文庫蔵）と比較した際に重なる部分が見られる。

○『沓掛村古城絵図』の総構えの形状は第2期目（戦国期）に全容が出来上がったものであり、内堀を築いた時に2重、3重の堀が出来上がったものとする。

○第2期の頃には井戸はなくなったものと考えられる。

なお、当時の井戸としては大きい規模のものである。